

おかやま環境レポート 2003

県の環境施策について、提言をお寄せください。

岡山県では、「岡山県環境基本条例」にもとづき、みなさんから広く環境を守り育てるためのご意見（提言）を募集しています。ふるさと岡山をよりよくしていくためのアイデアをお寄せください。

- ◎資格 岡山県内に住んでいる人、または岡山県内に通勤・通学している人ならだれでも提言できます。
- ◎提言の対象 身近な環境から豊かな自然まで、広く環境についての提言を求めています。
- ◎手続き 書面に必要な事項と提言の趣旨・理由を記入の上、環境保全委員会までご提出ください。郵送やファックスでもかまいません。

寄せられた提言の流れ

提言する人 提言書を提出し、必要に応じて資料の提出や説明を行います。

岡山県環境保全委員会 提言について調査・審議を行い、必要があると認めるときは知事などに意見書を提出します。また、提言・調査審議の状況は公表されます。

知事など県の機関 環境保全委員会の意見を尊重し、必要な措置を講じるよう努めます。

※お問い合わせは 岡山県環境政策課（下記）へ

おかやま環境レポート 2003

岡山県 生活環境部 環境政策課
〒700-8570 岡山市内山下2-4-6
TEL086-226-7298 FAX086-231-8094
e-mail kansei@pref.okayama.jp
岡山県ホームページ <http://www.pref.okayama.jp/>

〈お問い合わせ先〉

環境パートナーシップ構築プロジェクト
環境政策課 TEL086-226-7297 e-mail kansei@pref.okayama.jp

環境教育・環境学習推進プロジェクト
環境政策課 TEL086-226-7297 e-mail kansei@pref.okayama.jp
岡山県環境保健センター TEL086-298-2681 e-mail kanpo@pref.okayama.jp
岡山県自然保護センター TEL0869-88-1190 e-mail fvbs5490@mb.infoweb.ne.jp

自動車公害対策プロジェクト
環境管理課 TEL086-226-7302 e-mail kankanri@pref.okayama.jp

有害化学物質削減プロジェクト
環境管理課 TEL086-226-7305 e-mail kankanri@pref.okayama.jp

水環境保全プロジェクト
環境管理課 TEL086-226-7304 e-mail kankanri@pref.okayama.jp

快適生活空間創造プロジェクト
環境政策課 TEL086-226-7298 e-mail kansei@pref.okayama.jp

ごみゼロ社会プロジェクト
廃棄物対策課 TEL086-226-7307 e-mail haikibutu@pref.okayama.jp

自然との共生プロジェクト
自然環境課 TEL086-226-7309 e-mail sizen@pref.okayama.jp

地球温暖化防止プロジェクト
環境政策課 TEL086-226-7297 e-mail kansei@pref.okayama.jp

※アースキーパーメンバーシップについては
岡山県地球温暖化防止活動推進センター TEL086-298-2122 e-mail stopco2@kankyo.or.jp



N P O

K E N M I N

K I G Y O U

G Y O U S E I

平成15年版（概要版）

岡山県環境白書

岡山県環境基本計画・エコビジョン2010

未来を見つめた県民参加のエコプロジェクト、現在進行中。

岡山の豊かな自然と歴史的な地理風土は、県民みんなの大切な財産です。きれいな空気や水環境、豊かで身近な自然、美しい景観など、「晴れの国」にふさわしい健全な環境を守り、未来へ継承していくために、岡山県では、「岡山県環境基本計画・エコビジョン2010」を推進。2010年度（平成22年度）までの具体的な目標を定め、行政・事業者・県民それぞれが主体となった取り組みを進めています。

理念

健全で恵み豊かな環境を享受し、将来の世代へ継承

持続的な発展が可能な社会の構築

環境への負荷の低減

人と自然との共生の確保

地球環境保全の積極的な推進

社会のあらゆる構成員の参加

基本目標と施策

基本目標ごとに現状と課題を整理し、計画目標を定め、県民・事業者の参加のもとに行政が行う主要施策を明らかにするとともに、重点的に取り組むプロジェクトを示しています。

協働による環境保全

環境パートナーシップ構築プロジェクト
環境教育・環境学習推進プロジェクト

P2

1.空気をきれいに保ちます

自動車公害対策プロジェクト
有害化学物質削減プロジェクト

P3

2.水をきれいに保ちます

水環境保全プロジェクト

P5

3.静けさと快適な環境を保ちます

快適生活空間創造プロジェクト

P7

4.循環型社会を構築します

ごみゼロ社会プロジェクト

P9

5.豊かな自然を保ち、 自然とのふれあいを確保します

自然との共生プロジェクト

P11

6.地球環境を守ります

地球温暖化防止プロジェクト

P13

共通する基盤的な施策

それぞれの施策をスムーズに進めるために、共通する基盤的な施策を進めています。

条例等の
見直し・充実

環境影響評価
の推進

環境保全のための
費用負担意識の普及等

県の事業者・消費者
としての率先行動

環境情報の
収集、公開、公表

調査研究の推進

岡山県では、率先して徹底した環境配慮へ取り組むために、ISO14001規格に基づく岡山県環境マネジメントシステムを導入し、2001年(平成13年)2月に認証取得しています。この環境マネジメントシステムの運用により、エコビジョン2010の効果的・効率的な推進を図っています。

195万人の アクリション、 守ろう、岡山の環境。

環境問題は、私たちの日常生活や事業活動と深く結びついています。環境保全を進めるためには、県民の皆さんや事業者、NPO、行政などによる「協働」が欠かせません。岡山県としても、協働による環境活動を促進する仕組み作りを進め、また参加する人・団体の支援に取り組んでいます。



環境パートナーシップ構築プロジェクト



県民参加

地域ぐるみで、街や川・海をクリーンアップ。

協働による美しい環境の創出と環境意識の高揚を目指して、住民グループや県、市町村等の連携による道路、河川、児島湖、海岸の環境美化活動（アダプト事業）を推進しています。

平成22年度目標
612団体



●アダプト実施団体の増加目標

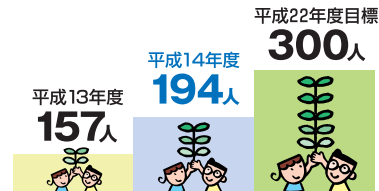
環境教育・環境学習推進プロジェクト



県民参加

みんなの心に、環境への思いやりが育っています。

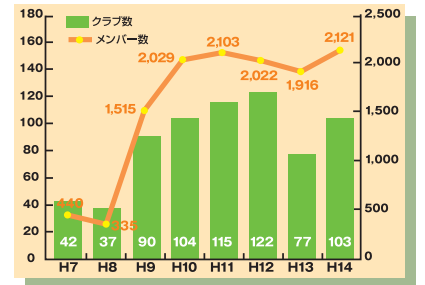
県民一人ひとりが地域の環境について知り、環境保全に取り組む意識を高めるため、環境学習リーダー等の人材育成や、子どもたちの自主的な環境活動である「こどもエコクラブ」の活動を支援しています。



●環境学習リーダーの育成目標



●こどもエコクラブへの参加者目標



資料/岡山県資料

こどもエコクラブとそのメンバー数の推移

平成13年度はクラブ数・メンバー数とも残念ながら減少傾向にありましたが、14年度には増加に転じ、メンバー数では過去最高を達成。今後もエコクラブの支援を続け、環境活動に携る子どもたちの増加を目指しています。

晴れの国から 自動車の排出ガスと 有害物質を減らせ。

大気汚染の原因として、近年は自動車交通量の増加による排出ガスが大きな割合を占めています。また産業分野においても、多様な化学物質が使用されるにつれ、これらによる新たな環境汚染が懸念されています。そこで県では、「自動車公害対策」と「有害化学物質の削減」を重点プロジェクトに設定。具体的な取り組みを進めています。

自動車公害対策プロジェクト

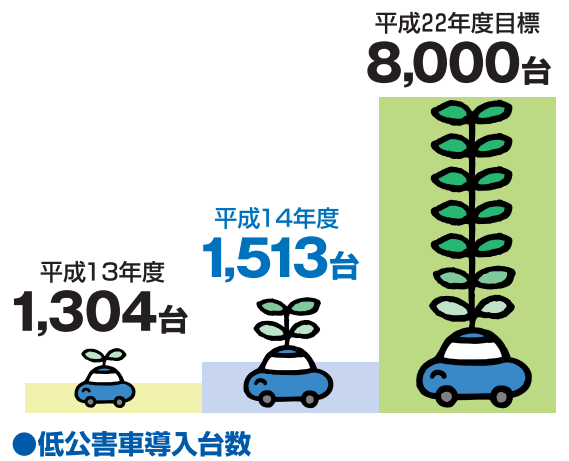


低公害車キャラバン隊による普及啓発活動

県民参加

街で見かけはじめたエコカー。7年後は当たり前前の光景に。

大気汚染物質を排出しない電気自動車や、窒素酸化物等の排出量の少ないハイブリッド自動車、天然ガス自動車等低公害車の普及・導入を図っています。

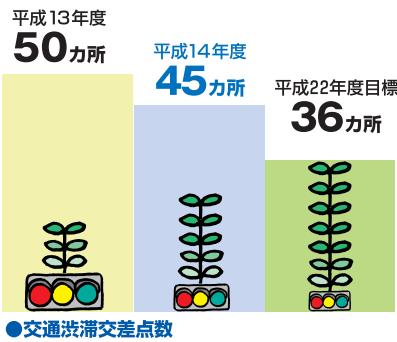


大気環境の現状と課題

重点課題である自動車排出ガスなどによる大気汚染状況を監視するために、県内71カ所に測定局を設置。環境基準への適合や排出量の推移を観測しています。このうち光化学オキシダントは、岡山だけではなく、全国でも99.5%の測定局が非達成となっている広域的な問題です。また浮遊粒子状物質は、黄砂現象が主要因となり達成率が低下しています。

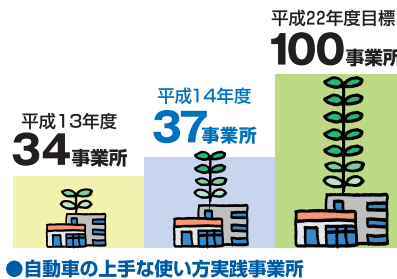
汚染物質の濃度・削減目標と達成状況

計画目標	測定汚染物質と環境基準値	14年度達成状況	今後の対策
汚染物質の環境基準への適合	二酸化硫黄(1日平均値0.04ppm以下)	全測定局で達成	<ul style="list-style-type: none"> 国と協力し広域的な発生構造を解明 工場等の監視・指導の充実 夏の対策強化
	二酸化窒素(1日平均値0.06ppm以下)	全測定局で達成	
	一酸化炭素(1日平均値10ppm以下)	全測定局で達成	
	光化学オキシダント(1時間値0.06ppm以下)	全ての測定局で非達成	
	浮遊粒子状物質(1日平均値0.10mg/m ³ 以下)	14/60局で達成(黄砂の飛来が主要因)	
汚染物質の排出量削減	ダイオキシン類	全測定地点で達成	<ul style="list-style-type: none"> 工場等発生源の監視や自動車公害対策プロジェクト等を引き続き推進 条例に基づき事業者の削減対策を推進 法律・条例に基づき、審査・監視や対策プロジェクト等を引き続き推進
	ベンゼン等(4物質)	ベンゼンのみ2測定地点で非達成	
	窒素酸化物(自動車からの排出)	減少傾向(平成6年度より4.4%減少)	
	硫酸酸化物・窒素酸化物(工場等からの排出)	横ばい傾向	



交通渋滞交差点数を減らし、渋滞を緩和。停車中の排出ガス量を削減しています。

交通渋滞情報や駐車場情報提供装置を充実させ、交通を平滑化。渋滞を緩和することで、排出ガスの削減を目指しています。



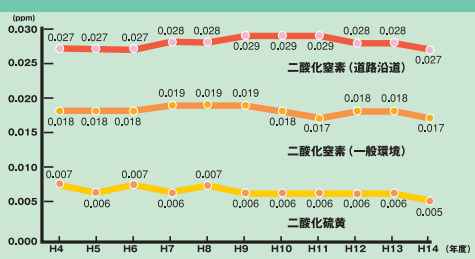
環境にやさしい運転を、会社をあげて取り組もう。

アイドリング・ストップの実践や荷物の積載制限を厳守するなど、環境に配慮した運転マナーの推進に取り組む事業所の増加を目指しています。

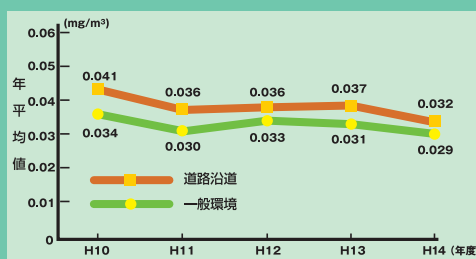
有害化学物質削減プロジェクト

観測地点と検査項目を増やし、監視の目をさらに厳しく。

大気環境中の有害化学物質の濃度について、モニタリングを充実。環境への負荷が著しいと認められる地域について、当該地域を指定して排出抑制の措置を講じます。また工場・事業場からの有害化学物質の排出量などを把握。工場・事業場に対し化学物質管理指針の周知徹底を図り、事業者による自主的な管理を促進しています。



二酸化硫黄・二酸化窒素平均濃度の推移
二酸化硫黄は環境基準が達成維持されています。二酸化窒素も環境基準を達成していますが、交通量の多い幹線道路沿道で、一部高い地域があります。自動車からの窒素酸化物排出量の削減が課題です。



浮遊粒子状物質の平均濃度の推移
浮遊粒子状物質の濃度はやや減少しています。環境基準を達成維持するためには工場やディーゼル自動車などからの原因物質の排出量の削減が課題です。

大気環境を守る対策の流れ

- 主要施策
- 自動車からの大気汚染物質の排出の削減
 - 工場・事業場からの大気汚染物質の排出の削減
 - 大気汚染防止夏期対策の実施
 - 有害化学物質による環境汚染の未然防止
 - 悪臭被害の防止
 - 大気環境状況の的確な監視



重点プロジェクト 自動車公害対策プロジェクト

- 総合対策
自動車に起因する大気汚染対策を推進するため、岡山県環境への負荷の低減に関する条例に定める事業者及び県民の取り組みを含めた総合的施策の強化
- 発生源対策
自動車排出ガスの最新規制適合車への代替を促進
ディーゼル自動車に係る粒子状物質削減対策を実施



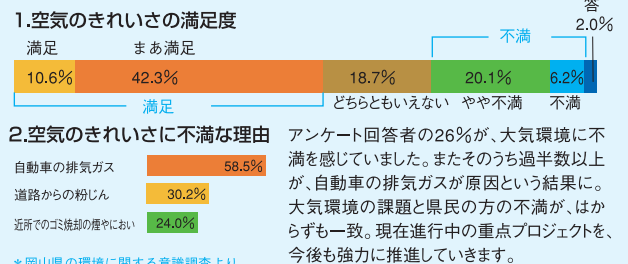
- 交通需要マネジメント施策
■低公害車の普及・導入
■アイドリング・ストップ運動等
岡山県環境への負荷の低減に関する条例では、貨物の積卸しや運転者が車を離れている場合等の駐車時にはエンジンを止めることを求めています。(義務違反者に対し5万円以下の過料)

有害化学物質削減プロジェクト

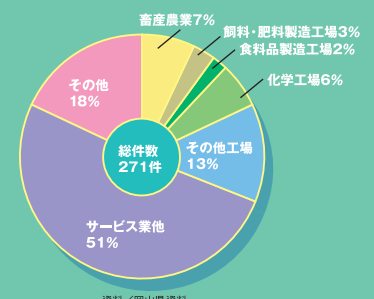
- 環境への排出量などの把握
- 環境への排出量などの集計・公表
- 自主的な管理の促進
- 排出抑制
- 環境モニタリングの充実

エコラム【空の巻】

郷土の環境、どう思う？



大気に排出される汚染物質は、概ね環境基準値をクリア。数々の対策が効果を上げてきています。

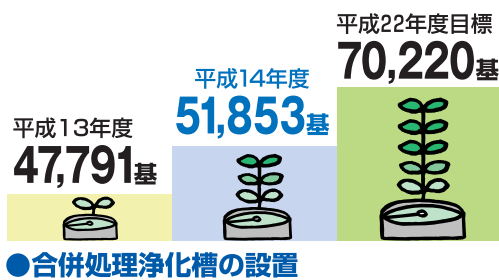


平成14年度 悪臭苦情件数
悪臭に関する苦情件数は、近年減少していますが、公害苦情件数全体の約12%を占めています。規制地域指定の拡大や事業所への指導の徹底を行っています。

郷土の清流・海の生き物たちを 環境を保全し、 生き物たちを守れ。

吉井川・旭川・高梁川の三大河川や美しい瀬戸内海を持つ岡山。その豊かな水資源は、私たちの暮らしに欠かせないものです。しかし都市化や生活様式の変化とともに、生活排水などによる水質汚濁が大きな課題に。県としても、水質の浄化や、水中・水辺の生き物を守り増やすための取り組みを急ピッチで進めています。

水環境保全プロジェクト



県民参加

生活排水の浄化を徹底的に推進。
川辺には、ホタルも戻り始めています。

生き物の棲みやすい「清流」を増やし、自然とのふれあいを楽しめる水環境を守っていくために、合併処理浄化槽をはじめとする污水处理施設の設置を推進。生活排水をクリーンな状態にして自然の川に返しています。

水環境の現状と課題

県内各地に観測点を設置し、実施している河川・湖沼・海域の水質等調査では、環境基準値非達成の地点も見られるものの、BOD・CODの達成率では近年と同様の状態をキープ。水質の浄化を進めていくためには、特に問題になっている生活排水の対策（公共下水道や合併処理浄化槽などの普及）を緊急に推進しなければなりません。

汚濁物質の環境基準達成状況

計画目標	測定項目	14年度達成状況	今後の対策	
汚濁物質の環境基準への適合	河川	BOD(河川)	26/31水域で達成	<ul style="list-style-type: none"> 各種計画に基づき、総合的・計画的に保全対策を実施 引き続き調査・測定を実施
		COD(海域)	3/10海域で達成	
		COD(湖沼)	児島湖では非達成(9.8mg/l)	
	湖沼	窒素・りん(海域)	窒素は全海域、りんは6/8海域で達成	
		窒素・りん(湖沼)	窒素・りんとも児島湖で非達成(各1.3・0.19mg/l)	
		健康項目(26物質)	公共用水域全123地点で達成	
		要監視項目(22物質)	公共用水域全27地点で達成	
土壌	ダイオキシン類	水質・底質129地点のうち水質1地点で非達成(原因解析済)		
	ダイオキシン類	全60地点で達成		
地下水	健康および要監視項目(48物質)	1/64地点で非達成(原因:自然由来と推察)		

水環境を守る対策の流れ

●主要施策

- 生活排水対策の推進
- 工場・事業場対策の推進
- 瀬戸内海の水質保全対策の推進
- 児島湖の水質改善対策の推進
- ダム湖の環境保全対策の推進
- 有害化学物質による環境汚染の未然防止
- 地下水の保全対策や土壌汚染等の防止対策の推進
- 自然浄化能力の向上対策の推進
- 水質環境状況の適切な監視

●重点プロジェクト

水環境保全プロジェクト

■清流保全

水源地域の整備／合併処理浄化槽の設置促進／集落排水施設整備地区の増加／公共下水道の普及促進／おかやまの清流の選定／ホタル生息地の増加

■瀬戸内海の水質保全

メバル生息適地(藻場)の造成／COD汚濁負荷量の削減／窒素汚濁負荷量の削減／りん汚濁負荷量の削減

■児島湖の水質保全

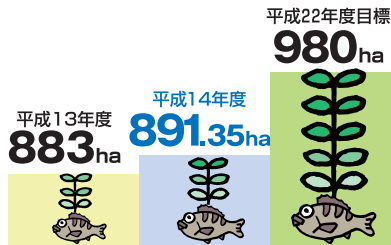
COD水質目標の達成／合併処理浄化槽の設置促進／集落排水施設整備地区の増加／湖内底泥のしゅんせつ／児島湖浄化センターの処理量の増加／水質浄化施設の設置促進／水生植物の適正管理／年間導水の確保

■ダム湖の水質保全

周辺地域の排水対策／水質浄化対策／水辺の生態系の保全

■有害化学物質の削減

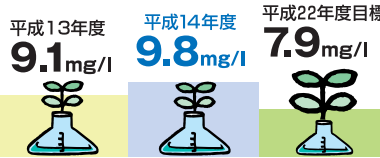
公共用水域でのモニタリング地点数・項目数の増加／環境ホルモン調査地点数・項目数の増加



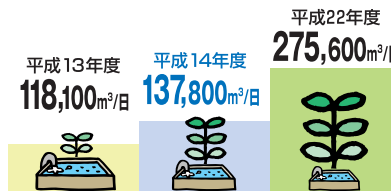
●メバル生息適地(藻場)の造成

魚の群れ泳ぐ姿があちこちに見られる、そんな瀬戸内海に。

藻場・干潟等の保全・再生を強力に進め、メバルをはじめ瀬戸内海の魚類等の生息環境を高めています。



●児島湖のCOD水質目標

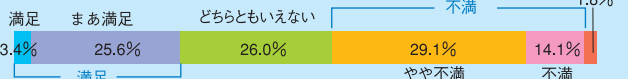


●児島湖浄化センターの下水処理量

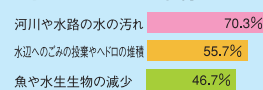
エコラム【水の巻】

郷土の環境、どう思う？

1. 水(川、湖沼、海)のきれいさの満足度



2. 水のきれいさに不満な理由



県民アンケートでは、43%の人が水環境に不満があると回答。多くの人が水質悪化やごみ、ヘドロの堆積、それによる生物の減少を理由にあげています。岡山県でもこの結果をしっかりとらえ、水環境保全プロジェクトの確実な前進を目指しています。

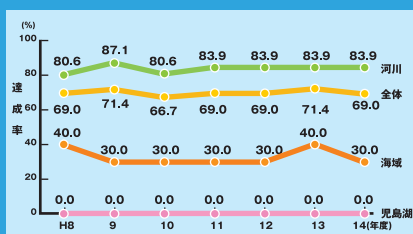
*岡山県の環境に関する意識調査より

県民参加

児島湖再生にむけ、多方面からの対策を全力で進行中。

流域の公共下水道や合併処理浄化槽などの整備を進めるとともに、湖畔のアダプト活動の推進など、各種の浄化対策を全力をあげて実施中。児島湖の水質保全を図っています。

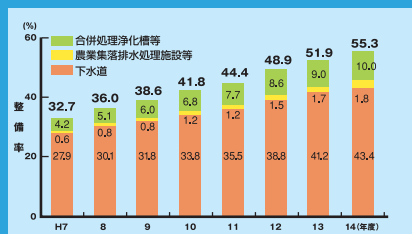
ホタル・メバルの生息地の増加が示すように、数々の対策が効果を発揮。今後も水質浄化の取り組みを進めます。



資料/岡山県資料

県内公共用水域の環境基準の達成率 (BOD・COD)

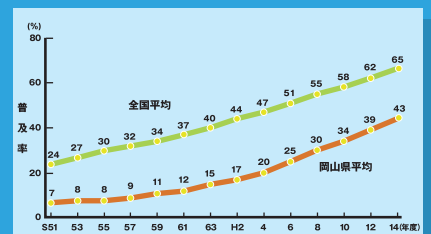
水の汚れを判断する代表的な指標、BOD(生物学的酸素要求量)やCOD(化学的酸素要求量)の環境基準達成率は、近年とほぼ同じ傾向をキープしています。



資料/岡山県資料

県内下水処理施設の整備率

人口あたりの生活排水処理施設の整備率は、平成13年度に50%を突破し、14年度にはさらに増加。水環境の維持向上を目指して、今後もさらに普及拡大に努めます。



資料/岡山県資料

岡山県および全国の下水道普及率の推移

公共下水道の普及も、確実に進行中。汚濁物質の流出を防ぎ、環境への負荷を減していくために、さらなる普及を目指して、取り組みを進めています。

心地よい環境を守るため、 騒音問題や落書きを なくそう。

自動車をはじめとする交通手段の発達により、道路や鉄道、空港周辺で発生する騒音・振動への対策が求められています。また同時に、「景観」への意識が高まるなか、まち並みの計画的な整備や、落書き、屋外照明による光害等への対策も課題となっています。県では「快適生活空間創造」を重点プロジェクトとし、諸問題の総合的な解決を目指しています。

快適生活空間創造プロジェクト



平成22年度目標
10.0km

平成14年度
5.68km

平成13年度
3.6km



●低騒音舗装道路延長の推移(2車線換算延長)

騒音の出にくい、新しい舗装の道路が増加中。
自動車による騒音の低減に効果を上げています。

自動車社会の発展は、私たちの生活を便利にした反面、交通量の増加にともなう騒音が問題になっています。その対策として県では、騒音の出にくい舗装の道路を着々と導入。騒音問題の解決に、効果を発揮しています。

静けさ・快適環境の現状と課題

県内各地の道路・新幹線鉄道・空港周辺の騒音・振動測定では、振動については全地点で要請限度と指針を達成したものの、騒音は特に道路に面する地点で非達成の地域も。こうした自動車による騒音の低減と、まち並み・景観の美化対策を進めていくことで、「快適生活空間」が実現していきます。

騒音・振動の環境基準等達成状況と、まちづくりへの取り組み

計画目標	測定項目	14年度達成状況	今後の対策
騒音の環境基準への適合	一般騒音	一般地域24/35地点、道路に面する地域23/48地点で達成	・法律に基づき監視 ・道路構造や交通流対策を総合的に実施 ・第3次75dB対策(14年度完了)の検証 ・西日本旅客鉄道(株)へ対策要請 ・定期的な監視を継続
	新幹線鉄道騒音	1/9地点で達成	
	航空機騒音	全2地点で達成	
振動の要請限度と指針への適合	道路交通振動	全14地点で達成	・必要な監視を継続
	新幹線鉄道振動	全9地点で達成	
美しく快適で安全な都市景観・まちづくり		「快適安心まちづくりプラン」を策定 4路線で電線類地中化事業を実施(県管理道)	・プランに基づきワークショップ事業を展開 ・平成16年度を初年度とする電線類地中化の新5カ年計画の策定
	快適な生活環境の保全・創造	・条例の普及啓発活動を実施 ・落書き防止活動推進員266名委嘱・ボランティア10団体を支援 ・屋外照明施設の設置・改修補助制度を創設(2町へ助成) ・岡山空港駐車場の放置自動車撤去	・落書き防止・消去活動を、推進員と連携し、県民・行政の協働で促進 ・県管理施設への落書き、放置自動車、光害等の防止対策を率先して実施

静けさ・快適環境を守る対策の流れ

●主要施策

- 道路交通騒音・振動の防止
- 新幹線鉄道騒音・振動の防止
- 航空機騒音の防止
- 工場・事業場騒音・振動の規制
- 美しく快適で安心な都市景観・まちづくりの推進
- 落書きの消去・防止活動の推進
- 空き缶等の投棄防止
- 自動車等の放置防止
- 光害の防止

●重点プロジェクト

快適生活空間創造プロジェクト

■自動車等からの騒音・振動対策

自動車を重点とするほか、新幹線鉄道、航空機の騒音・振動による生活環境の阻害について対策を推進します。

■都市景観・まちづくり

県民参加のワークショップを開催し、地域にふさわしい都市景観を提案。

■電線類の地中化

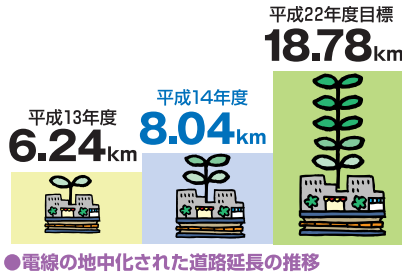
電線類の地中化を推進し、美しく快適な都市景観を創出。

■落書き消去活動

民間の消去活動の支援など、県民総参加で落書きを一掃。

■光害防止

公共施設の率先的な光害対策に取り組み、市町村の照明設備の新設・改修を支援。



電柱や電線の無い、美しいまち並みが誕生しています。

美しい都市景観を創出するために、上空を占有し美観をそこねる電線類の地中化を推進。電柱や電線の無いきれいなまち並みも徐々に増えています。

快適な生活環境の創造にむけて

平成14年施行「岡山県快適な環境の確保に関する条例」

落書き、ポイ捨て、自動車放置、光害に対し、罰則を含む防止措置を定めた条例に基づき、さまざまな取り組みを実践。きれいで快適な生活環境の創造を推進しています。



●条例の普及啓発活動

条例の普及啓発活動を積極的に進め、県民の皆さんへ理解と遵守を呼びかけています。



●放置自動車の撤去

県管理施設に放置された自動車の撤去を進めています。



●落書き防止・消去活動

落書き防止活動推進員と連携し、町内会・商店会・ボランティア団体等が行う消去活動を支援。



●屋外照明の設置・改修

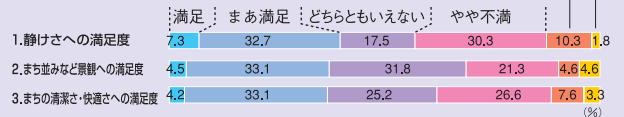
市町村が設置する屋外照明の光害対策を進めるため、設置・改修への補助制度を創設。



※ホテル型照明

エコラム【生活環境の巻】

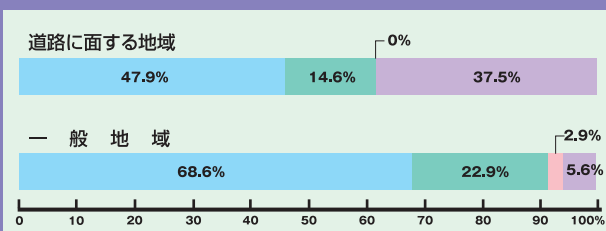
郷土の環境、どう思う？



アンケートの結果、県民の皆さんは少なからず騒音や美観へ不満を覚えていることが判明しました。このうち騒音は、87%の人が「自動車・バイク」が原因と回答。またまち並みへの不満理由は「景観を考えた街づくりが行われていない」が47%、まちの清潔さ・快適さについては、「落書きが目立つ」が41%というデータがあがっています。県としても、重点プロジェクトのさらなる推進にむけ、積極的に取り組みを進めています。

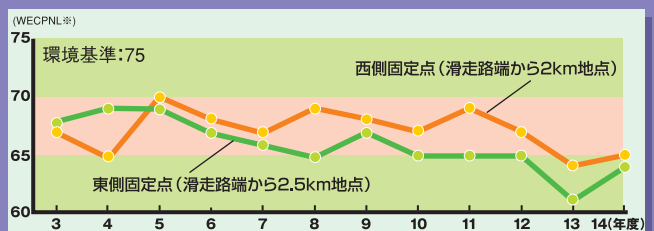
*岡山県の環境に関する意識調査より

「振動」は要請限度・指針に適合。自動車騒音と、景観の美化についても、各種対策が進行中。



平成14年度 騒音の環境基準達成状況

- 昼間・夜間とも達成
- 昼間のみ達成
- 夜間のみ達成
- 昼間・夜間とも非達成



航空機騒音に関する環境基準の達成状況(岡山空港)

岡山空港周辺での航空機による騒音は、例年環境基準を5から10w値以上下回る水準をキープしています。

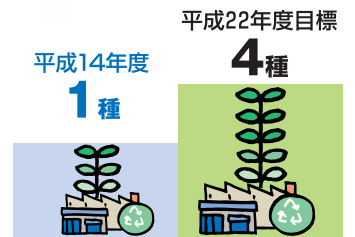
※WECPNL: (航空機騒音の)うるささ指数。1機ごとの騒音レベルに、時間帯別の飛行回数を加味して算出します。

ごみゼロ社会に！

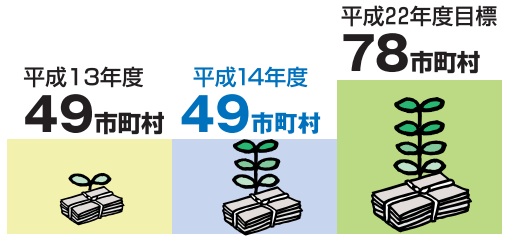
循環的な利用で ごみ削減の工夫と

経済性や効率、利便性を優先した大量生産・大量消費の社会は、限りある資源を浪費し、廃棄物による自然への負荷も深刻化しています。その対策として岡山県では、「ごみゼロ社会」の実現を重点プロジェクトに定め、ごみの削減やリサイクル利用を積極的に推進。県民参加によるごみ減量化対策は、すでにその効果を現し始めています。

ごみゼロ社会プロジェクト



●ごみゼロガイドラインの策定



●7種分別実施市町村数

県民参加

ごみゼロ・再利用の輪を
県民・事業者の間に広げていきます。

県民の皆さんの理解と協力を得ながら、ごみの減量・リサイクルを推進。既に県下49市町村で行っているごみの7種分別を、近い将来には全78市町村へ導入します。また県では、産廃の種別ごとに排出抑制策等を定めた「ごみゼロガイドライン」も策定中。平成14年度の「汚泥」に続き、順次4種まで拡大します。

廃棄物・リサイクルの現状と課題

県民の皆さんの意識向上や、分別・リサイクルの実践活動が浸透していった結果、ごみの最終処分量は減少傾向に転じています。平成22年度までの各種目標を確実に達成するためには、今後も県民・事業者・行政が一体となり、資源の循環的な活用をますます促進していかなければなりません。

ごみ減量化の達成状況

計画目標		排出量等の目標値	14年度達成状況	今後の対策
一般廃棄物	排出量の削減	1,862t/日(17年度) 1,828t/日(22年度)	1,923t/日(13年度実績値・対前年98t減)	岡山県廃棄物処理計画等に基づき、ごみの排出抑制と再利用・再生利用をさらに促進
	最終処分量の削減	283t/日(17年度) 195t/日(22年度)	323t/日(13年度実績値・対前年111t減)	
産業廃棄物	発生量の削減	10,774千t/年(22年度)	11,734千t/年(12年度実績値)	・14年度の汚泥に続き、循環資源の「ごみゼロガイドライン」を順次策定 ・「循環資源情報提供システム」の構築 ・エコ事業所認定制度の創設や地域ミニエコタウン事業の支援
	最終処分量の削減	503千t/年(22年度)	729千t/年(14年度推計値・12年度より276千t減)	

ごみ減量・リサイクル促進の流れ

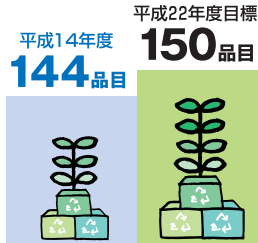
●主要施策

- 循環型社会の構築
- 一般廃棄物対策
- 産業廃棄物対策
 - 排出事業者・処理業者の監視・指導
 - 排出事業者による発生量抑制・再利用
 - 処理業者の育成・指導
(適正処理の意識高揚と技術向上)
 - 廃棄物処理施設の整備
 - 広域的な移動への対応

●重点プロジェクト

ごみゼロ社会プロジェクト

- 廃棄物の減量化
容器包装廃棄物・資源ごみの分別回収を徹底。事業者による産廃排出の抑制・リサイクルの徹底。
- 廃棄物の有効利用
「ごみゼロガイドライン」の策定。
- 再生品使用
「岡山県再生品の使用促進に関する指針」の策定。「岡山県エコ製品」の認定促進。
- エコタウン事業
エコタウン構想を推進し、リサイクル事業へ独創的・先進的に取り組もうとする企業・研究機関・市町村等へ働きかけてエコタウンプランを策定。再生品の使用へ先進的に取り組む事業所を認定・奨励し、ゼロエミッションを推進。
- 公共事業
建設残土の再利用や、下水汚泥の建設資材化等、リサイクルを一層促進し、公共事業へ率先使用。

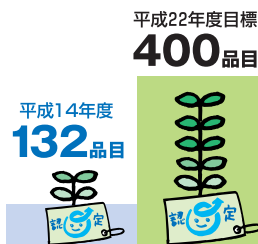


●再生品使用促進指針の策定品目数

県民参加

使いたい、使ってほしい再生品の種類・基準を決定。

使用を進めたい再生品の種類や、その再生資源配合率等の基準として「岡山県再生品の使用促進に関する指針」を策定。県・事業者・県民の間で、エコ製品の使用を広げています。

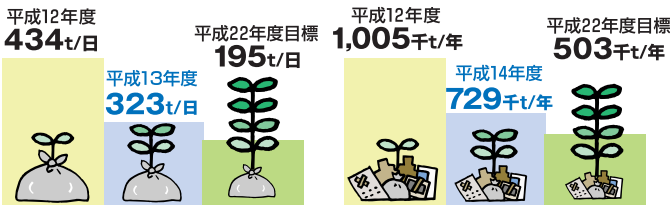


●岡山県エコ製品の認定品目数

県民参加

岡山県認定のエコロジー製品も、続々と登場。

再生品など、循環型社会に貢献する製品の認定制度を創設。初年度で132もの「岡山県エコ製品」マーク付き商品が誕生しました。



●一般廃棄物の最終処分量

対前年で111tの削減に成功。一層の削減にむけ、今後も対策を進めます。

●産業廃棄物の最終処分量

産廃についても削減を達成。「ごみゼロガイドライン」等を推進し、さらに減量を図ります。

県民参加

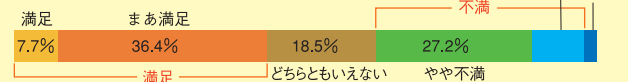
既に減少し始めたごみ。今後も一層削減していきます。

県民参加による各種対策が功を奏し、ごみの減量効果が現れてきています。今後も、さらなる削減にむけて対策を進めていきます。

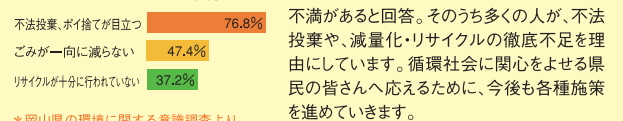
エココラム【ごみ・リサイクルの巻】

郷土の環境、どう思う？

1.ごみ処理、リサイクルの満足度

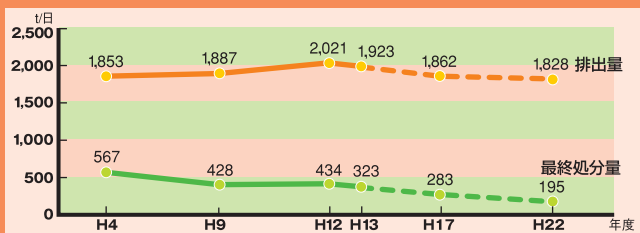


2.ごみ処理、リサイクルに不満な理由



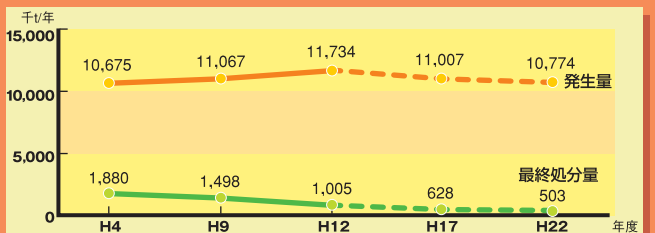
*岡山県の環境に関する意識調査より

各種対策が成果を上げ、最終処分量はしだいに減少傾向に。さらなる削減対策が、現在も進行中。



県内での一般廃棄物の排出量と最終処分量

13年度の実績は、排出量・最終処分量とも12年度より約100tの減量を達成。今後も目標達成にむけ、対策を継続します。



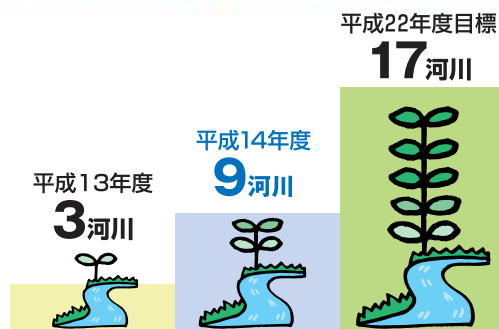
県内での産業廃棄物の発生量と最終処分量

リサイクルの促進や、処理技術の普及等により、最終処分量は確実に減少中。排出事業者・処理業者の啓発等、排出抑制の取り組みも進んでいます。

自然と動物の楽園に。
おがやまを

中国山地・吉備高原・瀬戸内海と、多様な自然を持つ岡山県。しかし都市化や開発が進む中で、自然環境の保全や野生動植物の保護が、緊急の課題となっています。また一方で、環境に対する県民意識の向上とともに、自然とのふれあいを求めるニーズも増大。県では、「自然との共生」を重点プロジェクトに、自然保護やふれあいの場の創造にむけた各種の取り組みを実行しています。

自然との共生プロジェクト



●水辺づくり事業の実施河川数

県民参加

「こんな水辺で遊びたい・憩いたい」を、現実の光景にしています。

地域の人たちが水辺の自然とふれあい、親しめる場を増やしていくために、「出会いとふれあいの水辺づくり事業」を展開。住民のニーズに基づく河川環境の整備を進めています。

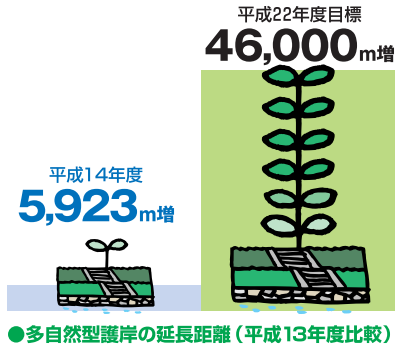
自然環境の現状と課題

14年度も、自然公園・都市公園が充実。

生物多様性を確保し、野生動植物との共生を図っていくためにも、残されている自然を大切に守っていくことが重要課題。また環境保護に関する啓発活動や、身近に自然とふれあえる場を増やす取り組みも、積極的な推進が必要です。県としても、自然公園等の指定地拡大による保護や、都市公園の整備、レッドデータブックの作成など、各種事業を広く展開しています。

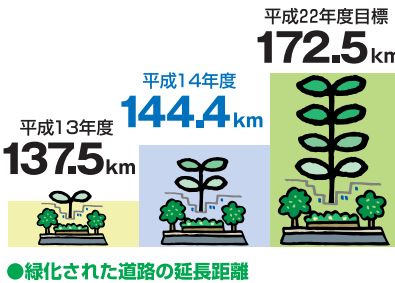
自然保護対策の計画と達成状況

計画目標(目標値)	14年度達成状況	今後の対策
自然公園等の面積拡大(国平均14%と同程度へ)	県土の11% ・国立公園の一部を公有化し保全 ・鯉が窪地域を県自然環境保全地域へ指定 ・吉備路風土記の丘県立自然公園特別地域を拡張	・自然公園等への指定が必要な地域を引き続き調査検討
生物多様性の確保・野生生物との共生	野生生物の目録を作成 岡山県版レッドデータブックを発刊	・岡山県版レッドデータブックの活用と普及啓発 ・岡山県希少野生動植物保護条例の制定
自然とのふれあいの場の確保	自然公園内の利用施設を整備	・効率的な施設整備を継続的に推進
森林の減少防止・緑の質的向上	県内の森林面積484,451ha(県土の68.1%)	・森林の保全・確保に努め、適切な保育事業を計画的に実施
都市公園の拡充(県民1人あたり10.2m ² から20m ² へ)	10.3%に拡大	・都市公園の整備を継続的に推進



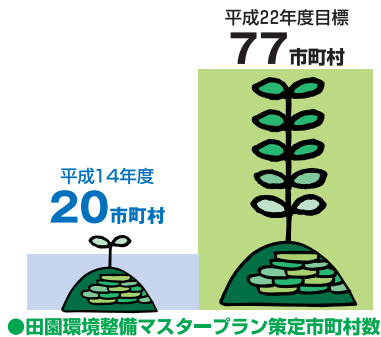
生き物たちをよびもどす、自然に近い川をつくっていきます。

自然との共生に配慮した河川を増やしていくために、多自然型護岸の整備を促進します。



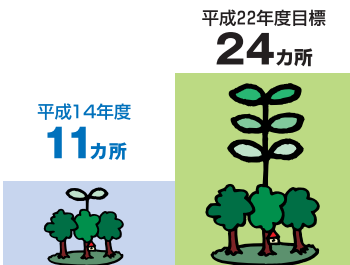
街に、緑や花のあふれる道路を増やしています。

ゆとりとうるおいのある道路空間を創出するため、道路の緑化を継続的に実施。緑や花が楽しめる道路を増やしています。



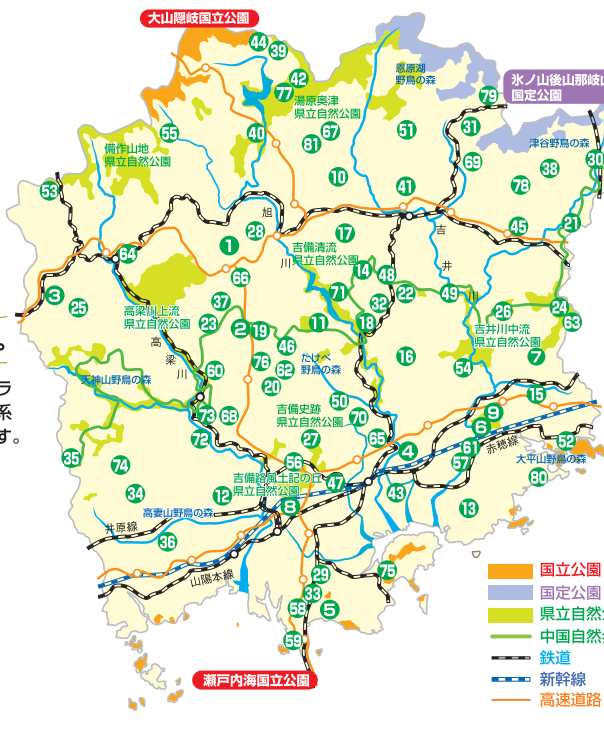
美しい田園風景を、住民の参加で。

自然と調和した農山漁村の形成を図るため、マスタープランの策定を住民参加の下で推進。各地域の景観や生態系に配慮した農業農村整備事業を計画的に進めています。



県民参加 里山を守る「育ての親」が増加中。

所有者による手入れが困難な里山を、地域住民が「育ての親」として管理・利用する協定制度を創設。里山を守り、自然学習の場として利用する動きが広がっています。

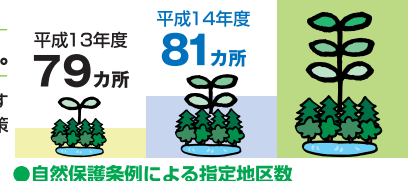


- 県自然環境保全地域
 1. 塩滝
 2. 大平山・権理山
 3. 鯉が窪
- 環境緑地保護地域
 4. 竜の口
 5. 田の口
- 郷土自然保護地域
 6. 大滝山
 7. 和意谷
 8. 浅原
 9. 熊山・奥吉原
 10. 櫛山
 11. 北気
 12. 新田
 13. 安仁神社
 14. 岡山寺
 15. 松尾山
 16. 布都美
 17. 幻住寺
 18. 三樹山
 19. 天福寺
 20. 具足山
 21. 恵龍山
 22. 渡多
 23. 祇園山
 24. 八塔寺
 25. 荒戸山
 26. 真木山
 27. 大井宮山
 28. 木山
 29. 新熊野・蟻峰山
 30. 大原神社
 31. 尖岩山
 32. 仏教寺
 33. 稗田八幡宮
 34. 千手院
 35. 高原
 36. 甲斐神社
 37. 高岡神社
 38. 権笠神社
 39. 東彦原
 40. 天狗の森
 41. 中山神社の社叢
 42. 津黒
- 郷土記念物
 43. 曹源寺の松並木
 44. 歌の松並木
 45. 笠懸の森
 46. 加茂総社宮の社叢
 47. 吉備津の松並木
 48. 西幸神社の社叢
 49. 宗形神社の社叢
 50. 九谷の樹林
 51. 岩屋の森
 52. 高良八幡の森
 53. 野原の松並木
 54. かしらの森
 55. がいせん桜
 56. 矢喰の岩
 57. 福岡城跡の丘
 58. 柳田八幡の森
 59. 下津井祇園神社の社叢
 60. 津川のタノノキ
 61. 天王社刀剣の森
 62. 吉川八幡の森
 63. 滝谷神社の樹林
 64. 龍頭のアテツマンサク
 65. 金山八幡宮の社叢
 66. 宮地天神社の社叢
 67. 布施神社の社叢
 68. 御前神社の樹林
 69. 山形八幡神社の森
 70. 徳蔵神社の樹林
 71. 四之宮八幡の森
 72. 水内八幡の森
 73. 高岡熊野神社の森
 74. 星尾神社の社叢
 75. 雨見山の樹林
 76. 大村寺のクロマツ
 77. 下和の一本松
 78. 皆木のマンサク
 79. 物見神社の社叢
 80. 善福寺のツバキ
 81. 神田神社の社叢

平成22年度目標 **115カ所**

県民参加 貴重な自然へ、さらに手あつい保護を。

自然公園や郷土自然保護地域などの指定地域を拡大すると同時に、貴重な自然林・湿地・水辺などの保護対策も強化していきます。



岡山を、温暖化防止と、 クリーンエネルギー活用 の一大フロンティアに。

オゾンホールや酸性雨、熱帯林の減少など、さまざまな課題を抱えている地球環境。中でも温室効果ガスによる地球温暖化の進行は、最も重大な問題となっています。岡山県では、「地球温暖化防止」を重点プロジェクトに設定。地球を守る県民レベルの省エネ運動を推進し、また自然環境と調和したクリーンエネルギーの活用に取り組んでいます。

地球温暖化防止プロジェクト



平成22年度目標
6,000会員

平成14年度
1,157会員



●アースキーパーメンバーシップ会員数

県民参加

アースキーパーメンバーシップ会員に多くの県民や事業所が参加しています。

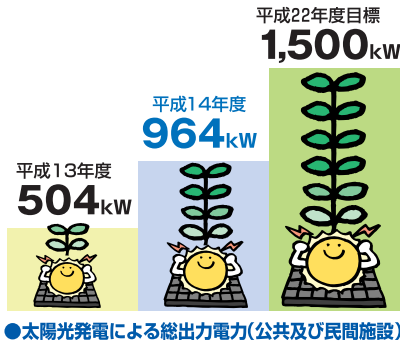
地球温暖化を防ぐため、自主的に取り組む個人や事業所を「アースキーパーメンバーシップ会員」として登録。初年度ですでに1,000以上の県民・事業所が加入し、身近にできる省エネなど、環境への負荷を減らす取り組みを実践しています。

地球環境の現状と課題

二酸化炭素の県内での排出量は、1998年度では50,004千tと推計され、その量は、ブルガリアの排出量に匹敵しています。岡山から発生する二酸化炭素やその他の温室効果ガスを減らしていくために、クリーンなエネルギーの活用や、県民をあげての省エネ活動を、さらに急ピッチで進めていきます。

温室効果ガス削減目標と各種取り組みの状況

計画目標	削減目標値	14年度達成状況	今後の対策
温室効果ガス排出量の削減	6.5%削減 (1990年度比)	目標達成にむけたフレームを整備 ・地球温暖化防止活動推進センターを指定 ・地球温暖化防止活動推進員43名を委嘱 ・エコパートナーシップおかやまを設立 ・アースキーパーメンバーシップ制度を創設、1,157会員が入会 ・太陽光発電システムの導入を促進（県施設への導入と、民間への補助を実施）	・県民・事業者・行政の協働により、岡山県地球温暖化防止行動計画を着実に推進



地球環境を守る対策の流れ

- 主要施策
- 地球温暖化防止対策
 - 脱フロン社会の実現
 - 酸性雨の監視
 - 森林・熱帯林の保護
 - 国際環境協力の推進



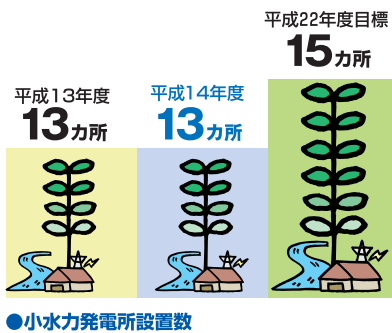
●重点プロジェクト
地球温暖化防止プロジェクト

- エコライフ・エコオフィスの推進
「アースキーパーメンバーシップ」を推進。
 - 森林整備
複層林化、広葉樹の導入など、多様性のある健全な森林を整備。
 - 県民参加の森林づくり
県民の直接参加による森林の整備・保全活動を推進。
 - 太陽光発電
県の主要施設への率先的な導入。民間施設への導入を支援。
 - 新エネルギー等の活用
小水力発電所等の建設を推進。
コージェネレーションシステム(※1)、燃料電池、バイオマス資源(※2)等を調査研究。
 - 環境共生都市
未利用エネルギーを活用するビルの建設を推進。公開空地の緑化等により、環境負荷を低減。
- ※1 コージェネレーションシステム:熱と電気を同時に供給する、エネルギー効率の高いシステム。(発電時の排熱利用等)
※2 バイオマス資源:エネルギー資源として利用可能な生命体。(直接燃焼、アルコール発酵等による燃料化、他)

県民参加

「晴れの国」の陽光が、続々と電気をつくっています。

化石燃料を使わないクリーンエネルギーとして、太陽光発電の普及を推進。県の施設へ率先的に導入し、また民間への導入も支援しています。



環境にやさしい、未来のエネルギー開発も進行中です。

環境を汚さないエネルギー源として、小水力発電等を積極的に推進。またコージェネレーションやバイオマス等、新エネルギーの調査研究も進めています。

地球を守る、県民の動き



●地球温暖化防止活動推進センター

温暖化防止にむけた調査研究や情報提供、活動実践の拠点として機能しています。
※アースキーパーメンバーシップ会員の申し込みも受け付けています。(問合せ先は裏表紙参照)

●地球温暖化防止活動推進員

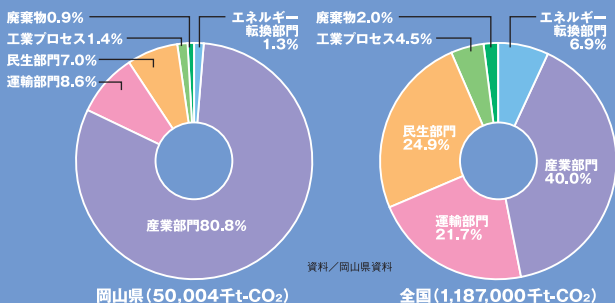
防止活動を地域で実践するうえでの指導・助言者として、43名の推進員が活躍中です。

県民参加

地球を守るために、県民も立ち上がっています。

地球温暖化の防止にむけて、その対策活動の拠点となる「地球温暖化防止活動推進センター」を設けるとともに、協働による取り組みも着々と進行しています。

温室効果ガスの削減目標達成にむけて、取り組みはしだいに広がりを見せています。



	排出量 (千t-CO ₂)			1990~1998年度の伸び率
	1990年度 (平成2年度)	1995年度 (平成7年度)	1998年度 (平成10年度)	
二酸化炭素	51,069	51,035	50,004	0.98
メタン	454	372	348	0.77
一酸化二窒素	414	441	451	1.09
ハイドロフルオロカーボン	37	37	74	2.00
パーフルオロカーボン	125	125	213	1.70
六ふっ化硫黄	189	189	243	1.29
合計	52,287	52,198	51,334	0.98

注/※二酸化炭素以外は、二酸化炭素換算量で示しています。
※1990年度のハイドロフルオロカーボン・パーフルオロカーボン・六ふっ化硫黄は、1995年度実績です。
※四捨五入の関係上、合計が一致しないことがあります。

資料/岡山県資料

岡山県と全国の部門別二酸化炭素排出量 (1998年度)

岡山県で排出している二酸化炭素は、その多くを産業部門が発生。排出を抑制していくために、企業のアースキーパーメンバーシップ参加や、太陽光発電の導入を推進していきます。

岡山県の温室効果ガス排出量と伸び率

1990年度から1998年度までの各種温室効果ガスの合計量は、わずかな減少にとどまっています。各種対策を総合的に進め、2010年度までの目標達成を目指します。